

私の信仰

イスラームの基礎知識



トルコ宗務庁出版局

イスラームの基礎知識



トルコ宗務庁

私の信仰

編集

博士 メフメット・エミン・オズアフシャル 博士 レジャーイ・ドアン

出版ディレクター

博士 ユクセル・サルマン

出版コーディネーター

ユヌス・アクカヤ

プロジェクト

トルコ宗務庁宗教教育課

単元の筆者

単元1.4.8 博士 アリ・クシャット
単元2.3.5 博士 スレイマン・アクユレック
単元6.7.9 博士 エルドアン・バザルバシュ

校正

ムスタファ・カヤ

植字

ヌルギュル・モルダリエヴァ ムジェッラ・テキン

アンカラ・2017

ISBN: 9978-975-19-6663-6

2017.34.Y.0003.1282

認証番号:12931

第1版

外務省高等評議会:09.05.2016/38

印刷

Çınar M. ve Y. San. Tic. Ltd. Şti.

+90 212 628 96 00

©宗務庁宗教書出版局

連絡先

宗教書出版局

ユニベルシテレル地区、ドゥンルムナル通り、147番A

チャンカヤ/アンカラ

電話:+90 312 295 72 81 • fax:+90 312 284 72 88

eメール: yabancidiller@diyanet.gov.tr

単元1	4	単元6.....	90
人間と宗教		啓典を信じること	
1. 人間の本質	7	1. 啓示とその必要性.....	93
2. 人間の本質と宗教.....	8	2. アッラーによる書物.....	95
3. 人生における宗教の位置付けとその重要性.....	9	3. クルアーンの啓示.....	100
4. 宗教の概念	13	4. クルアーンの筆記と啓典化.....	101
5. 宗教の概念についてのさらなる見解.....	14	5. 知識の観点からクルアーンが	
6. 宗教の源	15	目標としている人間像.....	103
7. 様々な信仰のあり方.....	16	6. 信仰の観点からクルアーンが	
8. 宗教の種類.....	17	目標としている人間像.....	106
単元2.....	20	7. 行動の観点からクルアーンが	
信仰と人間		目標としている人間像.....	107
1. 信仰とその重要性.....	23	単元7.....	112
2. カリマ・タウヒード(神の唯一性についての言葉)と		預言者たちへの信仰	
カリマ・シャハーダ(信仰告白の言葉)	25	1. 預言者であること、そして預言者に	
3. 信仰と行動のつながりという観点からの人間.....	26	求められるもの.....	115
4. 信仰—知識—行動のつながり.....	30	2. 預言者たちの特性	117
単元3.....	38	3. 預言者たちの役割	120
アッラー、人間、そして世界のつながり		4. 奇蹟と驚異.....	121
1. アッラーと創造	41	5. 預言者たちの人生の描写.....	122
2. 創造の観点から見た人間の立場.....	42	単元8.....	134
3. 人間とアッラーとの結びつき.....	43	来世への信仰	
4. 創造の観点から見た世界	47	1. 来世への信仰とその重要性.....	137
5. 人間とこの世界のつながりにおける		2. 死と死後の復活.....	138
人間の責任.....	50	3. 人々が行ったことについての尋問.....	141
単元4.....	54	4. 天国と地獄.....	143
アッラーへの信仰		5. 死と死後についての誤った信条(輪廻転生).....	144
1. アッラーの存在とその唯一性	57	単元9.....	148
2. クルアーンにおけるアッラーの特性.....	58	運命(カダルとカダー)への信仰	
3. アッラーが創造されたものへの慈悲と		1. カダルとカダーの概念.....	151
愛情を示す美名	61	2. 人間の運命に関するいくつかの特性.....	153
4. アッラーの慈悲を示す美名.....	65	3. クルアーンにおける運命に関する概念.....	157
5. アッラーの力を示す美名.....	68	解答集.....	166
単元5.....	72	参考文献.....	167
天使たちへの信仰			
1. 天使たちの特徴	75		
2. 天使たちの役割	77		
3. 天使以外の目に見えない存在.....	80		

前書き

慈悲と慈愛の持ち主であられる崇高なるアッラーは、人間を最も美しい形で創造され、優れた能力を与えられ、啓典の対象としてふさわしい存在とされ、誉れを与えられました。そして責任をも負わせられたのです。この世界での生においてアッラーは人間を放置されることはなく、無信仰という闇から人間を救い出し信仰と正しい徳という輝きの中に導くために、ご援助・お恵みとして預言者たちと啓典を遣わされました。

最初の人間と共に存在し始めた宗教は、人間が本質的に求めるものです。宗教は生活のすべてとその真の意味を私たちに教え、現世と来世、知性と魂の均衡を維持するよう促し、人々に内面のやすらぎをもたらし、社会には愛情と公正さを与え、個人的・社会的な責務をイバーダという形の責任へと変える、生活全般に及ぶ規範の集大成です。

自分自身、世界、そして創造主を理解しようと努め、アッラーを愛し、アッラーに結びついている人は、創造主が遣わされた慈悲の使者と神聖な書物のあとを辿ることによって、しもべとしてのあり方、そして生きることの真実を理解しようとし始めたことになります。

この観点から、人が宗教を必要としたとき、それが正しく適切な知識によって把握されることが重要になるのです。

イスラームの教えの対象とするところがまず人間であることを考えるなら、イスラームについての知識を私たちの生き方を照らすよう常に新たなものとしていくこと、イスラームの輝かしいメッセージが人々の理性や心で新たなものとされること、知識と生き方の間にダイナミックなつながりを生じさせることはたいへん重要です。それゆえ当宗務庁では、人がイスラームについての知識を必要としたとき、迷信などではなく正しい知識を得ることができるよう、そして信仰やイバーダ、預言者ムハンマドの人生、道徳といったことについて人々に知識を提供することを目的として、近代的・科学的なデータも参照にしつつ、「イスラームの基礎知識」というシリーズを企画しました。あなたが手にしておられる本書『私の信仰』は同シリーズの一冊目あたり、宗務庁付属の教室で教えられているイスラームの基礎知識の授業カリキュラムに適した形で作成されたものです。

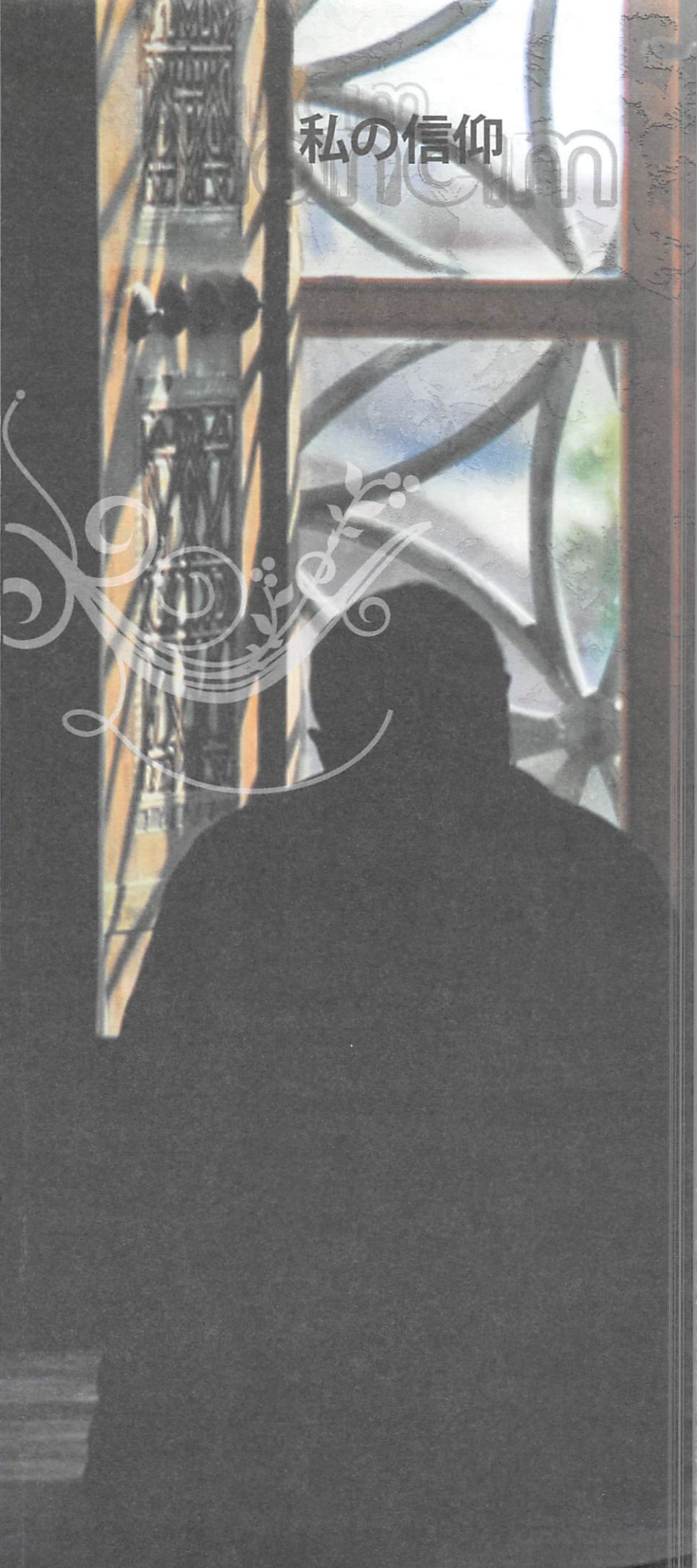
本書では、イスラームの教えの基本的な要素の一つである信仰について述べています。すなわちイスラームの信条とタウヒードの信仰の根本を形成する、アッラーの存在とその唯一性、天使たち、啓典、預言者たち、審判の日、そして運命への信仰について言及しています。

本書が読者の皆様に役立つことが、私たちの最大の願いです。

努力は私たちのもの、成功はアッラーからのものです。

私の信仰

单元
1





人間と宗教

1. 人間の本質
2. 人間の本質と宗教
3. 人生における宗教の位置付けとその重要性
4. 宗教の概念
5. 宗教の概念についてのさらなる見解
6. 宗教の源
7. 様々な信仰のあり方
8. 宗教の種類



単元について

この単元では、

- 人間のこの世界における役割と立場
- その他の生き物たちとの関係
- 人間のなすべきことや責任
- この世界における人間の本質と宗教との結びつき、
- 人間の宗教への理解や把握の仕方が説明されています。さらに、宗教的概念と意味や内容が含まれています。これまでの歴史を通して生まれてきた様々な信仰のあり方についても説かれています。

学習目標

この単元を終えたときには、次のような目標に到達することができます。

1. 人間がなぜ創造されたかを把握する。
2. 人間の本質と宗教との関係を理解する。
3. 人間の生き方における宗教の役割とその重要性を理解する。
4. 宗教の定義と、その源が何であるかを理解する。
5. 様々な信仰のあり方、そして宗教を分類する。

学習時には

1. 単元の冒頭に掲げられた目標に到達できているかどうかを確認しましょう。到達できていない項目を再び読んでみましょう。
2. 単元の中で取り上げられている研究、考察は必ず実行してください。
3. 巻末にあげている文献の中で入手可能なものは読んでみてください。



考えてみましょう

クルアーンによれば、信託が人間に与えられました。それにより人間は、

- クルアーンを読み、理解し、必要なことを実践すること、
- 責任意識を持つこと、
- 自らを成熟させること、
- 愛し、愛されること、
- アッラーの命じられたことに従うこと、などを誓ったのです。

1

人間の本质



この世界におけるすべての被造物は、それぞれ目的を持って創造されています。生命を持つものも持たないものも、被造物は皆、創造された目的に応じて行動します。植物は、そのなすべきことを行っています。適切な環境を見つけるとそこに根付き、成長し、空気から二酸化炭素を吸収し、私たちの生命の根源である酸素を生産し、私たちが栄養分を得る果実を実らせませす。植物はその任務を、創造されたとき以来1日も欠かすことなく実行しています。

このことについて崇高なるアッラーは「かれこそは、あなたがたのために天から雨を降らす方で、それによってあなたがたは飲み、それによって樹木は生長し、それによって牧畜する」（蜜蜂章第10節）「かれらは、かの大地を見ないのか。如何に多くの、凡ての尊いものを、われはそこで育てるかを」（詩人たち章第7節）と仰せられ、人間についても何のために創造されたのかを問われているのです。

動物に与えられた任務

動物もまた、アッラーが彼らに本能として与えられた任務を、1日たりとも欠くことなく実行しています。蜜を作り出す蜜蜂は、創造された日以来、同じ任務を過不足なく実行し続けてきているのです。



「またあなたの主は、蜜蜂に啓示した。『丘や樹木の上に作った屋根の中に巣を営み、』（蜜蜂章第68節）」

人間の創造の意図

人間の創造の意図は、他の動物とは大きく異なります。人間以外の動物は、人間のこの世界における基本的な欲求を満たす形で、本能としてその任務を遂行しますが、人間の創造の意図は完全に異なるものです。人間は他の生き物とは異なり、いくつかの特性を与えられています。この特性は、人間が自らを動かし支配する意志を持っていることにあります。これらの特性は人間に責任を持たせ、実

行すべき務めを与えているのです。

崇高なるクルアーンによるなら、信託を与えられた人間は、クルアーンを読み、理解し、求められていることを実践すること、責任意識を持つこと、自らを高め成熟させること、愛し、愛されること、アッラーの命じられたことに従うという点などにおいて責任を持つことを認めたのです。

神の信託を与えられた人間は、創造されたとき以来、自らを高め、自らの内なる特性を明らかにしようとしてきました。すべての行いにおいて、アッラーの前において責任を持たされているのです。

アッラーはクルアーンで、人間が創造された理由、そして人間の責任を明白に述べられておられます。

- 「人は思わないのか。われは以前何も無いところから、かれ（人間）を創ったのである」（マルヤム章第67節）
- 「本当にわれはかれを試みるため混合した一滴の精液から人間を創った。それでわれは聴覚と視覚をかれに授けた」（人間章第2節）
- 「本当に地上の凡ての有は、それ（大地）の装飾としてわれが設けたもので、かれらの中誰が最も優れた行いをするかを、試みるためである」（洞窟章第7節）
- 「ジンと人間を創ったのはわれに仕えさせるため」（撒き散らすもの章第56節）

8

2

人間の本質と宗教

人間は、アッラーを知り、アッラーを信じるのに適した形で創造されています。さらに人間は本質的に、物質的世界から精神的な世界へ向かおうとする特性を持っています。この点について崇高なる創造主は次のように言っておられます。



「本当にわれは、人間を最も美しい姿に創った」（無花果章第4節）

「それであなたはあなたの顔を純正な教えに、確り向けなさい。アッラーが人間に定められた天性に基いて。アッラーの創造に、変更がある筈はない。それは正しい教えである。だが人びとの多くは分らない」（ビザンチン章第30節）

人間は子供のころから、宗教を受け入れ、それを理解し実践するのに適した本質を持っています。「すべての人は、その本質に従って生まれる。その後、両親が彼を拝火教徒やユダヤ教徒、キリスト教徒にする」（ムスリム、カダル6）というハディース（預言者ムハンマドの言行録）は、すべての子供が教えを理解し、把握し、信仰し、それを実践するのに適した本質を持って創造されていること、しかし出生後の環境により、親の宗教を受け入れるということを説いているのです。

子供たちは生まれた瞬間からいくつもの発育段階を経て成長していきます。それぞれの段階で、実践され、獲得されるべきものがあります。それらが果たされる上で、宗教の役割は大きいのです。子供たちは一定の年齢に達すると、両親からの愛情や信頼に限りがあることを理解します。そして限り

なき永遠の愛情、つまりアッラーへと向かい、限りのない信頼をアッラーに見出します。

一方で人間は、本質的に自らの意志でアッラーを信じない自由をも持っています。人間は、宗教的な環境で育たなかったり、経験する出来事の影響を受けたりして、教えを受け入れないこともあります。アッラーを信じるか信じないかは自由であり、信じることを強制されてはいないのです。クルアーンで記されているように、



「宗教には強制があってはならない」(雌牛章第256節)

のです。

ただし人間は、その発育の特徴により、宗教を受け入れ、理解し、それに従って生きていくのにふさわしい特性を持っているのです。

宗教は、人の心、理性や感情に呼びかけ、人の振る舞いを人間らしいものとするのです。自己中心的な考え方をなくし、人間らしく生きていく規範を与えています。これにより、社会的もしくは個人的な生活が、アッラーのご満悦にかなう者となることを助けているのです。

3

人生における宗教の位置付けとその重要性

人間はいくつかの本質的な特性を持って生まれ、精神的に健全であることや成功するために、この特性に沿ってしつけられる必要があるのです。人間がその本質に沿って方向づけられることは、この世界でより成熟し、創造の意図に適った形で幸福に生きるための前提条件となります。

現世と来世における幸福と宗教

宗教は、現世と来世で人が幸福となるためにアッラーによって下され、人生のすべてに関わる教えや導きの集大成です。それらが実践されたとき、個人的にも社会的にも人間らしい生活を送ることができるのです。

アッラー及び他の人々との精神的なつながりと宗教

アッラーと心からしっかりとつながり、そのつながりの延長として他の人々との精神的な絆の上に築かれる宗教的な生き方は、人の精神の特徴とその美しいところが表れるという点において、重要な役割を果たします。

問いの解決と宗教

現世において人間が解くことのできない問いには、神による教えがその解決方法となります。例えば、私たちはなぜ創造されたのか。



考えてみましょう

- 私たちはなぜ創造されたのか。
- 死後、私たちはどうなるのか。
- 私たちがこの世界に存在していることの意図はどこにあるのか。

といった問いへの答えは、アッラーが下された教えの中にだけあります。だからこそ、人間の歴史において、宗教を持たない社会を見つけることができないのです。かつて社会の中で宗教を持たない人々は存在しても、宗教を持たない社会は存在しませんでした。



考えてみましょう

人間の歴史において、個人として一切の教えを信じない人々はいますが、宗教を持たない社会というものはありませんでした。

10

人間の肉体的、精神的、そして社会的な生き方における宗教

宗教が人間に従うことを求めている信仰、崇拝行為、そして道徳的な規範は、人間の肉体的、精神的、そして社会的な生き方の観点から非常に大切なものです。

- 宗教が守ってきた一連の道徳的規範は、一人ひとりが精神的に成熟し、自己中心的な考え方を捨て、社会性を身につけていくことを促します。
- 宗教は、人間にとって最も大切なものである生命、名誉、理性、財産、そして子孫の保護に関連する規範により、人が名誉を保ち、尊厳を持って生きるよう導きます。

競争社会と宗教

物質主義が蔓延し、自由のもとに高度な消費社会を迎えている現代では、宗教への希求はますます高まっています。物質的な豊かさが、精神的な求めをすべて満たすものではないということは周知の事実です。そして、たとえ一定の物質的な充足感を得たとしても、精神的な空白を満たすことができなければ、この空白は誤った信条や迷信によって満たされるか、物質主義の虜となり消費に狂奔することとなり、その空白を埋めるどころかより広げることになるのです。導きへの道案内であるクルアーンでは、



「これらの信仰した者たちは、アッラーを唱念し、心の安らぎを得る。アッラーを唱念することにより、心の安らぎが得られないはずがないのである。」（雷電章第28節）

と語られています。そして人の心の安らぎの源がアッラーの教えにあると説いているのです。心からアッラーに結びつき、アッラーを唱念し、アッラーを常に忘れることなく生きることは、人がどのような条件下においても自ら世界と調和して生きていくことを可能としているのです。

宗教から疎遠な人

宗教的な環境から遠く離れたところで生きている人は、一種の瞑想にふけったり、肉体を鍛えることで、こうした心の空白を埋めようとする傾向があります。特に大都市で暮らす一定以上の経済的水準にある人に、この種の関心が高まっていることの背景には、精神的な鬱積や苦痛があると言えるでしょう。



考えてみましょう

- 経済的な収益が人の欲求のすべてに應えることができないのは一つの事実です。
- 人が一定の経済状態に達した後、精神的な空虚な思いを神の教えで満たすことができなければ、人はこの空虚な思いを更なる消費によって満たそうとします。

人間の経済的・精神的な欲求と宗教

人間は集団生活を営む生き物です。したがって人間は何らかの集団に帰属して生きる必要があります。

- 人間は他の人々の経済的、精神的な助けを必要とします。同じ感情、考え、信仰を持ち、集う人々は、独自の信仰、価値観、そして文化的な環境を形成します。
- その環境の中で生きるためには、一つの価値観と原則が必要です。そう、宗教はそうした価値観と原則をもたらすのです。
- イスラームは、親戚や隣人と良好な関係を築くことや、彼らを訪問することの大切さを説いています。預言者ムハンマドも親戚付き合いの大切さを繰り返し指摘されています。崇高なるアッラーはクルアーンで「寧ろ正義と篤信のために助けあって、信仰を深めなさい」（食卓章第2節）と命じられました。預言者ムハンマドはあるハディースで、「親戚を訪問しなさい、なぜなら親戚の訪問をする人の寿命をアッラーは伸ばされ、糧を豊かにされる」と言われています。



社会的、経済的、政治的な諸問題と宗教

歴史上、社会的、経済的もしくは政治的な問題を抱える社会では、宗教をはじめとする価値観のもとに、人々は一つとなり、相互扶助の精神を培い、数々の問題を乗り越えてきました。なぜなら宗教は、道徳的、社会的、経済的な価値観を提供するものであり、社会に属する個々人が、特に困難な時期においてこの価値観に基づいて互いに支え合うことを神聖な務めと見なしているからです。それゆえ信仰心の強い社会は、困難に対してよりその強さと存在を維持することに成功してきたのです。

宗教は、何が正しく何が間違いであるかを教えます。そして正しいことを行い、正しくないことを避けるように説いています。特に人にとって良くない行動とはどのようなものであるかを示し、それらを禁止しています。他者の権利を侵害することを、アッラーのしもべに対する侵害と見なし強く禁じているのです。



考えてみましょう

- 宗教は、何が正しく何が間違いであるかを教えています。
- 宗教は、正しいことを行い、正しくないことを避けるように説いています。

12

社会的な規範と宗教

社会が維持され、健全な形で存在していくための基盤、すなわち社会的な規範を見ていくと、その存続と発展においても、宗教や信仰心がことに法制度において非常に重要な位置を占めていることがわかります。

信仰の存在は、社会的、文化的な生活をはじめとするあらゆる分野で感じさせます。そこに生きている社会の伝統や習慣、文学、芸術、道徳的な概念には、最後の神の教えであるイスラームが大きな役割と影響を持っていることがわかります。

社会の一体感を保持し継続していくためには、私たちが持っているイスラームの教えとその文化を次世代に伝えていくことが不可欠です。



「むしろ正義と篤信のために助けあって、信仰を深めなさい」（食卓章第2節）



「親戚を訪問しなさい、なぜなら親戚の訪問をする人の寿命をアッラーは伸ばされ、糧を豊かにされる」（エル・エデブ・ムフレド, 1/67）



考えてみましょう

- 宗教は、人間を現世と来世における幸福へと至らせます。
- イスラームは、親戚や隣人との良好な関係を築くように勧めています。
- イスラームは、アッラーにしもべとして仕え、人々に敬意を持って接することを求めています。

4

宗教の概念

「宗教・教え」という概念は、人類の創造以来、今日まで存在し続けてきたもので、個人もしくは社会生活において重要な位置を占めています。宗教の個人や社会生活における役割については多くの研究がなされてきました。

「宗教・教え」という言葉はアラビア語でディーンと言います。辞書的には、習慣、判断、罰、従属、民族、道徳、状態、感情、財産、統治、方策、崇拜行為、信仰、篤信といった広い意味を含んでいます。

またディーンという単語は、アラビア語で「借り」という意味を持つ「ディーン」という単語の派生語です。ディーンは、アッラーや自分自身、社会や人類、この世に対する私たちの借り、責任をまとめたものであるために、この意味で用いられるのです。

ディーンという単語のもう一つの意味は、「罰と報奨」です。したがって人間がこの世で行ったことについて裁かれる日のことを「ヤウムッディーン」（対価が与えられる日）と呼ぶのです。

ディーンという語は「道」という意味にもなります。アッラーの教えとは、アッラーが奨励され、命じられた道という意味です。アッラーのご命令と奨励に従って行動することは、アッラーの示された道に行くことなのです。



メモを取りましょう

宗教：罰と報奨

宗教：道

アッラーの教え：アッラーが奨励される道

ヤウムッディーン：最後の審判の日

5

宗教の概念についてのさらなる見解



「宗教とは、アッラーが預言者たちを媒介として下された、理性を持つものを、自らの自由意思で、最も良いもの、最も正しいものへと導く神の法の集大成です」



この定義には、以下の内容が含まれています。

1. 宗教とは、アッラーから遣わされたものです。
2. 宗教は、アッラーが人間たちの中から選ばれた預言者たちを通して下されました。
3. 宗教の基本的な目的は、人間がアッラーのご満足を得て、現世と来世で幸福となることです。宗教が人間に行うことを求め、もしくは行ってはいけないことを禁じる事柄は、この幸福のため

めのものです。

4. 宗教の大きな特徴は、人間がそれを自分の自由な意志と希望によって受け入れることができることです。宗教を強制によって認めさせることはできません。これはクルアーンで次のように表現されています。



「宗教には強制があってはならない」 (雌牛章第256節)

5. 宗教は善と悪を区別することのできる理性を持っている人々を対象としています。理性を持たない人は、宗教の命じるものに対して責任を負うことはありません。知的、精神的な意味で一定の年齢に達していない者、もしくは精神の健全さを失っている者は、教えの命令や禁止事項に対する責任を問われることはありません。



考えてみましょう

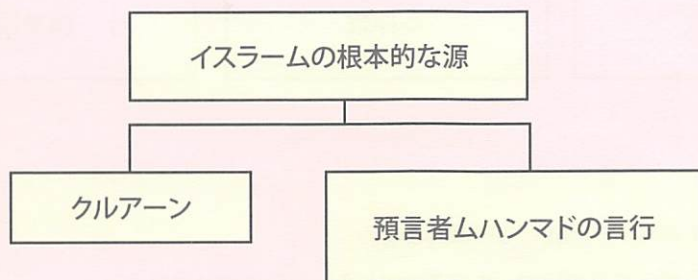
- 宗教が基本的に意図するところは、人間がアッラーのご満足を得て、現世と来世で幸福となることです。
- 宗教の大きな特徴は、人間がそれを自分の自由な意志と希望によって受け入れることができることです。

6

宗教の源



神聖な教えであるイスラームによると、宗教の源とはアッラーです。崇高なるアッラーは、人々の中から選ばれた存在を預言者とされ、彼らを通して人々に啓示を伝えられました。またアッラーは、人々を、この啓示を理解し、アッラーの存在と唯一性を理解できる性質を備えた者として創造されました。預言者アダムから預言者ムハンマドに至るすべての預言者は、自らに下された啓示をそのまま人々に伝えてきました。



したがってイスラームの教えの一つめの源は、アッラーによって遣わされた預言者ムハンマドを通して下された啓示からなるクルアーンです。もう一つの源は、預言者ムハンマドの言葉と行動です。彼の言葉と行動は、ハディースという書としてまとめられています。ハディースは、イスラームの信仰、崇拝行為、道徳について記されているクルアーンに次ぐ二つめの源なのです。預言者ムハンマドは最後の説教で次のように語られています。



「人々よ！私はあなた方に信託を遺して行く。それらにしっかりとつかまって従えば、あなた方の道は決して迷うことがないだろう。その信託とは、アッラーの書であるクルアーンと、預言者たちのスンナである」

イスラームの教えの知識、信仰、崇拝行為、道徳、そして人間関係をも含む価値観の源が、まずクルアーンにあり、次にスンナにあることが指摘されているのです。



7

様々な信仰のあり方



唯一神教

- タウヒードのことであり、一神教とも呼ばれます。
- タウヒードは、唯一の、崇高で超越した存在を信じる、信仰のあり方です。
- イスラームは最後のタウヒードです。すべての預言者たちが伝えた教えがイスラームなのです。この信仰では、アッラーは自ら存在され、すべてを無から創造される、最も崇高ですべてに対しその力が十分であられる存在なのです。

多神教

- シルクのことであり、偶像崇拜とも言われます。
- シルクとは、複数の神の存在を信じる信仰の形態です。
- シルクは、古代ギリシア、エジプト、スカンジナビアの神話などでかなり広く知られ、多くの人格を持つ神々の存在を認める信仰です。
- 人々は本来崇高な唯一神を信じていたのにもかかわらず、歴史的、地理的な状況の変化によって、唯一神教から遠ざかり、他の被造物を崇高なる神と同等のものであると見なすようになりました。こうして多神教、すなわち偶像崇拜が生まれたのです。

無神論

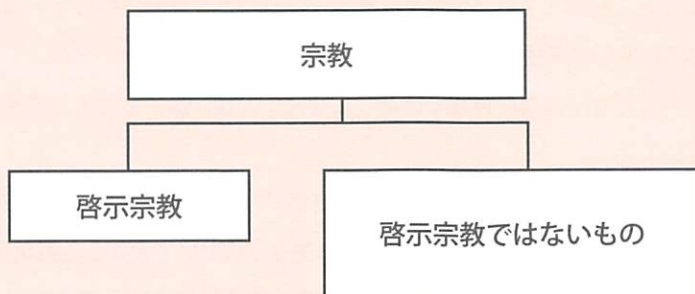
- 無神論は、アッラーやその他の神々の存在を完全に否定することです。
- 無神論者は、創造における神の存在を認めません。すべての存在がそれ自身で偶然に存在するようになったと主張します。
- 無神論は、宗教を認めない人、もしくは人々によって受け入れられている（宗教を認めない人はもちろんのこと、一般に受け入れられている？）哲学的な概念です。



宗教の種類



宗教は一般的に、啓示宗教とそれ以外の宗教の二つに分けられます。



啓示宗教

- 啓示宗教とは、アッラーによって遣わされた預言者たちを通して人々に下された啓示を源とする宗教です。
- 最初の預言者アダムから、最後の預言者ムハンマドまで、預言者を通して下された宗教は、啓示宗教と呼ばれます。
- その教えには、人間よりも崇高な存在であり、人々に何をすべきか、何をすべきでないかという忠告を与える、崇高なる創造主への信仰が存在します。
- 人間のこの世界での基本的な義務は、この崇高なる創造主を知ることであり、その創造主を崇拝することです。代表的な啓示宗教は、ユダヤ教、キリスト教、そしてイスラームなどです。

啓示宗教ではないもの

- 啓示宗教ではないものとは、人間が自らの考えによって作り出した宗教のことです。
 - これらの宗教は、アッラーにより預言者たちを通して下されたものではありません。
 - これらの宗教には、崇高な神への信仰はありません。これらの宗教の本質は、人を内面世界に向け、自らを高めさせることにあります。この目的で行われる動きも、崇拝行為として見なされません。その代表的な例として、仏教、ヒンズー教、神道、バラモン教、シーク教などがあります。
- 啓示宗教と啓示宗教ではないものが混じり合っている宗教もあります。その代表例は、今日インドで一部の人々によって信仰されているシーク教です。



単元のまとめ



- 生命を持つものも持たないものも、被造物は皆、創造された目的に応じて行動します。植物はそのなすべきことを行っているのです。
- 人間は、自らを動かし、制御するための意志と理性という特性を持っています。自らの行動について、アッラーの位階において責任を持っています。
- 人間の魂は宗教に対してなじまない存在ではありません。人間には、本性として崇高な存在への愛着が存在しています。
- 宗教は、人間がこの世界で解くことのできない問題を解決する方法を教えます。宗教が人間に求める信仰や崇拝行為は、人の肉体的、精神的、社会的な生き方において大きな効用を持ちます。
- 宗教・教え（ディーン）という言葉はアラビア語です。辞書的には、習慣、判断、罰、従属、民族、道徳、状態、感情、財産、統治、方策、崇拝行為、信仰、篤信といった意味になります。イスラームの考えでは、宗教の源はアッラーです。
- 神の存在とそのあり方についてはいくつかの信仰の形態があります。これらは、唯一神教、多神教、無神論です。
- 宗教は一般的に、啓示宗教とそれ以外の宗教の二つに分けられます。啓示宗教とは、アッラーによって遣わされた預言者たちを通して人々に下された啓示を源とする宗教です。啓示宗教ではないものとは、人間が自らの考えによって作り出した宗教とされています。



単元の復習



1. 宗教の根本的な源は何でしょうか。
2. 人間とその他の生き物の創造の意図は何でしょうか。
3. 人間の社会生活の観点から、宗教の重要性とは何でしょうか。
4. 信仰の様々な形態とはどのようなものでしょうか。
5. 宗教をどのように分類しますか。



確認のための問題



1. 下記の被造物のうち、責任という観点から他のものと異なっているものはどれでしょう。

A) 人間 B) 動物 C) 植物 D) 山 E) 鉱物

2. 「すべての人間は、その本質に従った形で生まれてくる。その後、両親が彼を拝火教徒やユダヤ教徒、キリスト教徒にする」というハディースで説かれている事柄は下記の項目の中でどれでしょうか。

A) 生まれてくる子は皆、拝火教徒である。
 B) 生まれてくる子は皆、ユダヤ教徒である。
 C) 子供は皆、宗教を受け入れる傾向を持って生まれる。
 D) 生まれてくる子は皆、キリスト教徒である。
 E) 生まれてくる子は皆、ムスリムである。

3. 下記の中で宗教の効用(?)ではない(宗教がもたらす?)ものはどれでしょうか。

A) 宗教は、過度な消費への欲望を抑え、精神的な満足感を与える。
 B) 宗教は、人が社会性を持つことを妨げる。
 C) 宗教は、人が現世で解決することのできない問題に答えを与える。
 D) 宗教は、親戚訪問を命じ社会的援助を奨励する。
 E) 宗教は、人とアッラーとのつながりについて教える。

4. 下記のうち、「教え」の意味ではないものはどれでしょうか。

A) 教えとは、借りという意味である。 B) 教えとは、罰と報償という意味である。
 C) 教えとは、進むべき道という意味である。
 D) 教え(ディーン)とは、世界(ドゥンヤ)という語から派生したものである。
 E) 教えとは、服従という意味である。

5. 下記のうち、信仰の様々な種類に含まれていないものはどれでしょうか。

A) 唯一神信仰 B) 多神教信仰 C) 無神論 D) 魔術とまじない E) 神秘主義